

WIDEX NEWS RELEASE

2011年11月11日
ワイデックス株式会社

報道関係者各位
ニュースリリース

「多くの高齢者がテレビの音声をしっかり聞き取れていない!？」 補聴器専門メーカー・ワイデックスのデンマーク本社が BBC(英国放送協会)と共同で高齢者のテレビ聴取状況の調査を実施。

ワイデックス株式会社(本社:東京都墨田区、代表取締役:菅谷保巳、以下ワイデックス)のデンマーク本社が、イギリス BBC(英国放送協会)と共同で高齢者のテレビ音声の聴取状況について調査を実施しました。

- ワイデックスが提供する補聴器と難聴の総合情報サイト「みみから。」:<http://www.widexjp.co.jp/>

ワイデックスとBBCの共同調査によって、多くの高齢者が、テレビ番組の中で話されていることを聞き逃してしまっていたり、話の内容をしっかりと理解できていなかったりしているということが判明しました。この現象の主な原因は、テレビ番組の音声における語音明瞭度の不足であり、このことが多くの高齢者(とりわけ難聴者)にとってテレビを楽しむ上での大きな障害となっていました。この調査報告を受け、BBCは事態の改善に向けた取り組みを始めています。

調査の背景

この調査は、Dick Bates(ディック・ベイツ)をリーダーとした、三人の元BBC幹部によって実施されました。彼らは、BBC勤務時代の自らの経験や部下からのコメント、そして、新聞投書欄への読者の投稿などから、「多くの視聴者、とりわけ高齢者は、テレビ番組の音声の聞き取りに困難を感じているのではないか?」という仮説を導き出しました。

そして、彼らは専門家のサポートを得てその仮説を確かめるための調査を実施することにしました。ワイデックスは音の研究の専門家としてその調査のサポートを行いました。このプロジェクトに参加することになった経緯について、デンマーク・ワイデックス本社のPRマネージャーPeter Knudsen(ピーター・クヌーセン)は、「語音明瞭度は、補聴器メーカーであるワイデックスにとって要となる要素の一つです。我々は、補聴器の装用者のために言葉の理解度と聞こえのレベル向上に努めており、その技術の実現のために多額の投資をしています。しかしながら、放送事業者が正しい音のレベルで音声を発信していない場合、われわれの技術の有効性は大幅に損なわれます。そのためワイデックスにとってこのプロジェクトは非常に重要なのです。」と言っています。

調査の概要

2010年8月、BBC Pulse オンラインパネルメンバー8000名と500名の65歳以上のインターネット未利用者を対象に、調査対象が普段視聴しているテレビ番組の詳細について日記調査が実施されました。調査の結果は、ディックをリーダーとするチームによって報告されました。

調査結果と分析

調査を分析したところ、相当数の視聴者が音声の聞き取りに問題があったと指摘している 22 のテレビ番組が判明しました。

これら 22 の番組の音声の録音状態については、詳細な検討が行われました。バックグラウンドミュージックの干渉は話し言葉の聞き取りにとって大きな阻害要因となりますが、録音技術のレベルの低さや話し手の発声の悪さも大きな影響を与えていました。

6 つの番組では、司会者や出演者の声を覆い隠すような音楽が加えられていました。さらに、6 つの番組ではマイク位置の影響で録音の状態が悪く、出演者の会話が不明瞭になっていました。他にも、出演者の発声が悪いため適切な録音ができなかった番組もありました。

さまざまな要因が、テレビ番組の音声の聞き取りに悪影響を与えますが、この調査結果の分析によって導き出された主な原因は、「しっかりとした訓練を受けていない録音担当者が多いことと、対話入力レベルが低すぎる時に録音を停止させる権限を与えられていない音響技術者が増えていることではないか」とディックは言っています。

今後の取り組み

調査結果を受けて、BBC は迅速な対応を行いました。BBC アカデミーを通じて、放送業界全体の教育・研修を開始しました。BBC の持つ知見に基づいたトレーニングメニューは、大学や他のテレビ局の研修機関を含む放送業界全体で活用されています。

ディックは、こうした取り組みがテレビ音声の「聞こえ」の改善に効果をもたらすと考えています。調査をサポートした VLV 社の社長 Jocelyn Hay (ジョスリン・ヘイ) は、「放送局は、テレビのバックグラウンドノイズや音楽について多くの苦情を受けてきたにもかかわらず、これまで具体的な対応策を講じてきませんでした。しかし、今後は、放送局の検証結果に基づくガイドランによって、多くの高齢者がテレビを試聴する楽しみを取り戻すことができるでしょう」と語っています。

ワイデックスでは、この調査に代表されるように音や聞こえに関するさまざまな調査研究へのサポートを行いながら、より良い補聴器づくりと社会への貢献活動を続けていきます。ワイデックスの今後の活動にご期待ください。

調査結果の主なポイント

- 難聴者が普段視聴しているテレビ番組のうち、20%の番組で話し言葉が聞き取りにくいという問題が確認された。
- 聞こえに問題があると回答した人のうち、65 歳以上の占める割合は 53%だった。
- 少なくとも 10%の視聴者が音声の可聴性に問題があると感じるであろうテレビ番組は、全体の 29%となった。
- 回答者の 52%が、番組の BGM のせいでテレビの楽しさが損なわれていると感じている。

その他

- テレビでは、通常、男性の声は女性の声よりも大きく聞こえる。
- 私たちが聞いていることのおよそ 25%までは、話し手の唇の動きを見ることで確認されている。
- 一般的に、女性の声は男性の声に比べて周波数が高くなる。加齢による難聴の場合は、高い周波数の音から聞こえにくくなることが多いので、女性の声は男性の声よりも聞き取りにくいことができる。
- 歌詞のついた BGM は、歌詞のない BGM よりも音量を小さくする必要がある。歌詞付きの BGM の音量が大きいと視聴者の注意力が散漫になってしまうからである。